

わがまち紹介

結城市

みんなの想いを 未来へつなぐ
活力あふれ文化が薫るまち 結城

株式会社筑波銀行
藤咲 清彦

結城支店長



結城市長
小林 栄氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。
「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。
今回は茨城県結城市です。筑波銀行結城支店長 藤咲 清彦が結城市長 小林 栄氏にお話を伺いました。

市制100周年に向けて

結城市は2024年に市制施行70周年を迎えます。市長として2期目の任期がスタートした2023年8月、これから100年、200年と本市が繁栄を続けるために、市政運営の柱として「新3K宣言」を掲げました。この3つのKは、健康 (Kenko)・経済 (Keizai)・教育 (Kyoiku) の頭文字から取ったものです。

一つ目の「健康」では、『健康寿命日本一』という目標を掲げ、全ての市民が健康を意識し、より一層人生が豊かになるよう、個人ごとの健康増進・維持プログラムの導入や健康診断の受診率向上などに努めていきます。

二つ目の「経済」では、市内産業の均衡ある発展を目指し、農地の集約化や基盤整備の推進、工業団地への新たな企業誘致による雇用の創出などにより、市民が安心して生活できる環境を作っていきます。

三つ目の「教育」では、「子どもこそまちの未来を

つなぐ最も大切な財産」という考えのもと、多様な個性を伸び伸びと引き出すことのできる「個育て」や地域特性を生かした教育環境の整備を進めていきます。現在、結城南中学校区の5つの小学校を統合して小中一貫教育を目指す「結城南中学校区新設校」を計画していますが、市制100周年に向けた新しい教育のモデルケースとなるよう推進していきます。

結城は歴史・文化の宝庫

私は古河市の出身です。26歳で結城市に来たとき、古くからの歴史があり、由緒ある寺院や神社、あるいは見世蔵など、文化的にも非常に貴重なものがたくさん残っていることに感心しました。

日本最古の歴史を有する高級絹織物の結城紬の伝統はいまも受け継がれています。全行程が手作業で行われ、1956年に「国重要無形文化財」、1977年に「伝統的工芸品」、そして2010年に「ユネスコ無形文化遺産」に登録され、日本が世界に誇る文

化となりました。

また、市内には8世紀前半に造られた結城廃寺跡があります。現在は発掘が進み、結城廃寺の屋根に使う瓦を生産した登窯の跡と共に「結城廃寺跡附結城八幡瓦窯跡」として、国指定文化財（史跡）になっています。

一昨年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にも登場し、鎌倉時代に城下町の礎を築いた初代朝光公から、昨年の「どうする家康」に登場した18代秀康公まで約400年を結城家が治め、その後、江戸時代には水野家がこの地を治めるなど、武家統治が長い間続きました。

北部市街地には、結城家が作り上げた城下町の街割がそのまま残り、明治から大正にかけて作られた見世蔵が数多く現存しています。

こうした結城市の歴史・文化の素晴らしさを後世に伝えていくために、市民とともに認識を深め、市外に発信していきたいと思っています。

縁を結ぶあたたかいまちづくり

結城市は、全国で唯一「結」の文字を持つ自治体です。私には、この「結」という文字を切り口に、人と人、物と物、多様な縁を「結ぶ」あたたかいまちを作りたいという想いがあります。

本市のまちづくりの特徴として、本市に想いを寄せる若者たちのグループが、自発的、積極的にさまざまな活動を展開していることが挙げられます。

代表的な活動の一つ「結いプロジェクト」は、「人と街を結ぶ」をコンセプトに2010年に活動を開始しました。最初に開いた「結い市」というイベントは、見世蔵や空き店舗、神社の境内を舞台に、クリエイターが個性豊かな作品を展示したりするものです。また、第二弾として開催した音楽イベント「結いのおと」は、日本商工会議所が主催する2023年度の「全国商工会議所きらり輝き観光振興大賞」で大賞を受賞しました。

一方で、結いプロジェクトの中心メンバーが設立した「一般社団法人MUSUBITO」は2023年秋に北部市街地に古民家を改装して「ゲストハウスHOTEL (TEN)」を開業、お試し移住などの事業を行っています。

また、「NPO法人ネクストゆうぎ」は、本市最大のイベント「祭りゆうぎ」の中で小中学生を中心に子どもたちがヒップホップ調の曲に合わせてチームで踊る「舞祭」をコーディネートしています。

さらに「結城市エディタープロジェクト」では、本市に在住・在勤する現役子育て世代の皆さんが、

育児に役立つ記事や親子に優しいカフェや遊び場などの情報を、自ら取材・編集してフリーペーパー「YuiFam. (ユイファム)」で発信しています。

こうした活動からは、市内外の人々との新しい縁が生まれており、「結」のまちだと実感しています。私たち行政は、市民協働のまちづくりの推進するため、こうした市民の自発的な企画や活動を支援してまいりたいと考えております。

リピーターがたくさん来るまちに

結城市の観光振興は、歴史・文化をはじめとした豊かな地域資源を活用してファンを増やし、リピーターがたくさん来るまちにしていくことだと考えています。

結城家17代晴朝公から18代秀康公に伝えられたものに「御手杵の槍」があり、「天下三名槍」の一つとされています。2023年5月に「茨城デスティネーションキャンペーン開催記念」として結城蔵美館で開催した「結城秀康展」では、この御手杵の槍のレプリカを特別展示することを記念して「刀剣乱舞ONLINE」とのコラボレーションを実現したところ、日本全国、海外から多くの若い方が訪れるなど、歴史コンテンツの潜在能力の高さに驚かされました。

結城紬を通じた市のPRのため、ボランティア団体「着楽会」による結城紬の着付け・貸し出しを、土日祝日に結城駅前で行っており、結城紬の着心地を体験しながらまち歩きを楽しんでいただいています。また、「きものを着て結城の街並み散策」をテーマに「きものday結城」というイベントを開催しています。

私は「着物が似合うまち、西の京都に東の結城」というキャッチフレーズを作っているいろいろな方に宣伝しています。結城紬を広く知ってもらうことで結城市の認知度を高め、例えば農産物で「あの結城でできた〇〇」と言われるような相乗効果を期待しています。

ゲストハウスに宿泊していただいたり、お寺で座禅をしたり、味噌・酒・醤油の醸造蔵で味や香りを楽



きもの day 結城

しんだり、蔵を改装したサウナ「KURA:SAUNA」で汗をかいったり、結城紬を織ってみたり…、さまざまなことが体験できる、“五感で感じる”着地型の観光ツアーを提案できたらと考えています。

ハード面の整備では、山川不動尊に隣接する「山川不動尊あやめ園」を拡張、子どもたちの教育や自然とのふれあいを目的にビオトープやため池などを整備し、近隣公園として2025年度中の開園を目指しています。

結城の住みやすさを発信

結城市への移住・定住の促進のために、2023年度は「ゲストハウスHOTEL (TEN)」を活用したお試し移住体験を実施しています。

また、30歳前後の若者世代の同窓会開催費用を補助しています。結城で育った子どもたちの約半数は、20歳前後で東京など市外へ出ていってしまっていますが、結城を出て就職し、社会経験を積んで10年経った30歳前後にもう一度結城に帰ってきて、ふるさとの魅力を再発見してほしいとの願いから企画したものです。

そのほか、「結城市奨学資金制度」として、大学などの卒業後に本市に5年間居住し、かつ市内の企業に正規就職した場合に返済が全額免除になる奨学資金制度を実施しています。

働く場の確保も重要です。現在、既存の工業団地に隣接する繁昌塚南地区に新たな工業用地を開発し、2024年の1月から企業の募集を開始しています。

農業分野では、新規就農者に来てもらうための情報発信や「お試し就農」、小規模でも付加価値の高い作物を生産するための支援なども検討しています。

こうした施策に加え、結城市の優位性を発信することも重要だと考えています。本市は、鉄道や高速道路を使って都心などへアクセスがやすく、災害も非常に少ないという地理的条件に恵まれています。

さらに、将来高齢になったときに医療や福祉が充実して安心できるまちづくりや、小中一貫校計画を通してこんな素敵な学校だったら子どもたちを通わせたいと思ってもらえる学校づくりなどを目指していきたい。

すべての人に「このまちは住みやすそうだ」と言ってもらえるような魅力あるまちづくりに取り組み、それを発信していくことが、これからの課題だと思っています。

地域資源を磨き上げる

結城市には、結城紬をはじめとする伝統工芸品や農産物、加工食品などの地域資源がたくさんございます。今後はこれらの資源をさらに磨き上げ、これまで

以上に認知していただくことが重要だと考えています。

例えばまちづくりの推進母体の一つ「株式会社TMO結城」では、特産のトウモロコシ、カボチャの粉を使ったゴーフレットを開発して販売しています。結城のお土産として認知されれば、観光との相乗効果も見込まれ、加工場が新たにできれば雇用の創出にもつながります。

また、結城紬の後継者の育成にも力を入れています。毎年「茨城県産業技術イノベーションセンター繊維高分子研究所」では3名程度の研修生を受け入れており、その後継者を大切に守っていくため、アパートの家賃補助や技術習得の補助を行っています。また、若手後継者に協力いただいて観光施設での実演を行い、そこで織られた結城紬は「着楽会」の着付け・貸し出しイベントなどで皆さんに着ていただけるようにしています。

結城紬は分業制で、糸を取る、染める、縛る、織るなど約40の工程をそれぞれ専門の職人が担っているため、技術が一つ欠けただけでも作れなくなってしまいます。結城紬の伝統を守るために多能工化を進める動きもありますので、積極的に支援していきたいです。



特産のトウモロコシとカボチャを使ったゴーフレット「結いベジ」

筑波銀行に期待すること

筑波銀行さんには民間のシンクタンクとして、コンサルティング的な視点から地場産業の活性化に役立つ情報の提供を期待しています。結城市は中小企業が多いですから、融資のほかに経営に関するアイデアを提供していただき、企業の成長を応援していただければと思っています。また、若い農業後継者の海外での販路開拓などについても、アドバイスをお願いします。

さらに、企業版ふるさと納税の対象になるような事業メニュー等があれば教えていただいて、本市のまちづくりに役立てていければと考えています。

(取材日:2023年12月25日)

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

市民主体のイベントづくり

結城市では、個人やNPO、各種団体などによるまちづくりに関する活動が盛んに行われています。活動領域の一つが、市内で開催される祭りやイベントの企画・運営や各種サポート、ボランティア活動など。本コラムではこうした祭り・イベントのうちから3つのイベントを紹介します。

▶ 祭りゆうき

市民による実行委員会が主体となり、2006年から秋に開催している結城市最大のイベントです。会場は市役所、南部中央公園(けやき公園)と結城市民文化センターアクロス。「踊」をメインテーマに、市内外から多くの踊り手が集結し、YOSAKOIやヒップホップなどさまざまなジャンルの踊り・ダンスを披露しています。ほかにも、御輿渡御・お囃子演奏会や秋の味覚を味わう飲食店の出店、体験型イベントなど、さまざまな企画を用意しています。姉妹都市、友好都市との交流も盛んで、2023年10月28日、29日に行われた「祭りゆうき2023」では、姉妹都市・山形県長井市の市民団体の協力により、「長井1000人いも煮会」として山形県の郷土料理「いも煮」が振る舞われました。



祭りゆうき



「きものdayフォトコンテスト2023」最優秀作品

▶ きものday 結城

結城紬などの着物を着て、城下町の風情ある街並みを散策! 結城紬の産地、結城から着物文化を発信する毎年恒例のイベントです。結城紬のレンタルや着付けサービスもあり、着物を持っていなくても大丈夫。ワークショップや演奏会、スタンプラリー、本場結城紬の反物が当たる抽選会などイベントも盛りだくさん。観光ボランティアが街なかを案内、各自治会が無料お休み処を設置するなど、参加者への最大限のおもてなしを用意しています。2023年11月11日、12日に行われた「第15回きものday 結城」では、「わたしの着物自慢」と題して一般参加のファッションショーを行ったほか、「お寺deランチ」として市内の孝顕寺で地元パティシエによる特別メニューを提供しました。

▶ 街なか音楽祭「結いのおと」



10回目の記念すべき開催となった2023年の「結いのおと-TEN-」

歴史と文化が息づくまち結城を舞台にした回遊型の音楽祭。2010年に活動を開始した市民まちづくりグループ「結いプロジェクト」が企画・運営を手がけ、結城市固有の文化遺産である寺社仏閣や酒蔵、結城紬の産地問屋などの空間をライブステージとして活用する唯一無二のイベントです。11年目となる音楽祭は、2024年4月20日と21日、結城市民文化センターアクロスのコンサートホール、結城市南部中央公園(けやき公園)の野外ステージを会場に開催が決定。イベント当日の夜などに関連企画も予定しています。イベントの目的や特徴、出演するアーティスト情報、タイムテーブル、イベントの歴史など詳細は、公式ウェブサイトでご覧いただけます。



「結いのおと」
公式ウェブサイト